あけぼの

宮内省圖書寮
宮内省圖書寮文庫

わすれ年みてたれかかに風もこゑ秋はいとくあらくあらくてゆくえみと
いそ女のあかこの夕方なこと半町て夕あさのあそてつまらぬ
きうけよいおうかれと我れ月の庭ゐあつはあつひも人かき一やまいきし
ひくいとあこぬといとあそらかくあそはなうくちをみなれしろうこあらう侍
はとみえなりうてと侍て給くいたりいとぬ給とて給をのほこゑひあさ
つすきこゑおわさりとおもつ出山にゑかのいとひきこたりつてもゑ
あとうちてるとひ給ふ所やへわむもとひわけるたりの花れつ月つきさり
本てへたるひなすまもゑ文をもしいをのとんてさるあこを人をいつるを
うちす給ろ女れこともうくくらいおりさめとたりゆかをもうち八人いさて
青ちるなすいくねひとつあくてものとふあるとうつゆきうこれか

うれるれをまくやてきすちつてなうけんをおとはうてともくれを
のあうたらあうちろよいそ給はれをこうの侍かとけるもちろ人へ
あとさ給そ給ふすりのつみとあくると

あけまれるもとえうとむすんあわあしとゑみのとあいあて
とら給く身をなめ給たれいちいのとくろさ夜なと

ぬきとおもひとうあるあら人もうきあつあ給ちていてひとんん
とおもいわえれいるかとうあけたなる給うつの御うへいかくるこゑるとおく
とそれちていつまもあつますくとさえの給うくてうれは年にそてすめやらの也
給すとゆうよいる侍あさとはゆゑれかふすててすえ給ゑらあとうてき
ここるめ給きき人ま中むまのゆとさてとちゃらいとよつあらはさそて

[illegible]

こゑをもちかくおもひつゝとさくらなふくる時もまたとききこえなれなき花やく
いろに花やわかめくられおもひ御らん事とたに今きこえさせ候ひしと申し
たゝゑとけくきえて申ははやとおもひよるへきおもひ今さととすへとさなむおも
なりおとやかわかひとの御心もとく宮たちとなかきこやまらしぬめす
わたとうちとけ給ひ御ありぬるかくみのとともおほれけむかしとおもひ
わかなさいしろくともちなるみつの御心にのつゝいとりたかとおもへ
御事たふくるまさうくとひよきにとよりなととすめることとさうれ
人たなかちへおわすれかねおほとくりをとこへととやらうくうたん給
心ゆゑとともに御ことはやいふもしくよりつきたのやかやかたおほれ給
るは申候にあんそてぬるくてさうて御ことにあらさりとそこうふかあみえのし
せ

わらはとこのかくろへと侍るなさゑさやすそかくて見えさらのつゝとくおつけて
またちりもかのみおもちなるへきおもひかみゆきものすそにおあるまゝせ
行はつもちと御ことかけまうひをりつおほまし世よりて御心のあるそ
はかなしわか御わかさたいとなりまをなとてふおるけらくさふおわれとく
えのつれ行はかうえたのこおもひわかをとひてしつもせ世の御心はしつ人おわ
おかほうしの御人へかうてとあく心をとまて手いぬうひおもひこてとらは
ちゝあいはおう人かいとかうてよ殿はすてそ御心またせ給をすまてとかゝ
宮のうしうにまうおほせてかくさまらてこそ御めにも人をもみなく
まられくはおこおひおもすなれおとやうへうぬととさこえこき世るれ
はんとひとえて給のぬめし宇なかりく侍あれとたつもへりみ給ひしなれ

ゑとらくいそくめてうとわつらひあけてみんとおもふさきて紙のうへのかゝり
やまかくしなひはなさを紙のうちせとてこゝろはつのたえきまくらもし
もとかゝるもあり御せんさせたまはゝとゐなりけるにはまたなる事
はるにひ御めおもはゝれしきみてはかたもなけきてのほとなみて花見
いつめかき浮世をたとへめるかさてゆめかおもほとなかめとさる
此はおもはれあるかひとなしとさきてを此はなかつかへを御かたの見るま
もれはおりのなかとみゆらせて仏あるゝとあるなれとさゝなくて
おもひあるいとらかなことなりとうきかくなるらなれ思ふなせ
なるとこそのをとのありせれはおもしあそさはむ思ひおほせはく
なくよみてよそひかなすちみとおもすやれかやまのへそこのこ

いるさはなすさもひゐてふくゝさこめあり世をとのつこをへて
なくきこえてつゝ御わたつこすとそまゐらせしかなれ
さくらも御なかとなるをたくていとゆくしるみ世中此あのとの
おそれもさうしもれつらもとなつけるわか思をさこめて乃て
すくめなれはさすかく宮たくおわかみらとかくもそのゝゆきき
さいのえいたなれしくさくうこゝろとなえせはたうてこしさせ世て
ふうさふともあす三条殿はおやと思ひさこ世きらとわなせいくさそれと
かくのおもひはやすくなれおこさせすしそのゆみ世ハすくいとうとくつ向を
ろくおもふ人さよるなく候そ御かたのほとゆれすみとも家ささら
ろことハいときハやくわつらをそたなまさかくしさるそてハそはなあつからかみ

ことはちかふこととかくてうらめしとのせくを思きこゆる気色をみえたく
ろいねそこはなうなりかたくかくなきとさなれはみゆるをもけりとと
わさなるはきてくしとはせてやみぬるをねなとひなみおいへくへえなりん
てそゆるわ御返きこえつゝさいとせられさるをわつきたくたひなとを
なかとも[illegible]まいらせわのととえなれ[illegible]のまへ之すこよひをと
ゆりぬくもかりうちとやすきこえ御返うて侍すひ御[illegible]かさなか
そとのらくこちある[illegible]らくかなうかやけいまつりしてうらとけく
きこえぬへしとひよく[illegible]きれとおなかくそてはありてうわされなう人のゆん
あれはこそなきとりそなりかくえてたいめ御[illegible]のあてすたかみえおけくみ
ありのたまきさやすかけさせてすみ[illegible]風をえてくそおそれするとやと[illegible]

あいしきれとみやうえてもこいたゝせおはらなとへきめてかくいつ御[illegible]なき
[illegible]かとつさとかなくみしてかいせまいらとと人てうと[illegible]へくしきさのなりて
いとゝせ[illegible]からめいりたなすゆまりてさめけまへいふをとゆくとすてまめと
とあかりゆき[illegible]ちとくへうとおほねなくしいか[illegible]なきとのゝ[illegible]御[illegible]
なかれ[illegible]のめあもたいゝえはりてることはりくなとゝたもとのうそ許さ
さりへんいおもて[illegible]らくるたくすゝもんさきにあそいとこ御くとうなと
思つもこれとつれなてありて此世のことゝあわれはとおくうとき御まく
[illegible]くかいひ[illegible]ぬちのうへうちつかとの御心[illegible]とさとてならぬへ
さりなへとゆくへつめれいゝとたゝきことすましうきつてみなからって御仏とうと
とかくなくへとなとのむかしてまゐせくめせとおともとはの[illegible]みたなや[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ねさしおきたまはりつめておはりのせちゑのひゝきて御心さしいとふかく
きこえ給ひてうとましけなることを御らんしかへしつゝなくさめ給ひけれ
させ給ふときゝ給ひておほしなけかれかくてなむみやつかへもとの御かたにまいりて
うめかゝにひき給へる空のけしきかくれなくみなひとこそのこりなくやうらみ
よろつにつけてもひとへにおほしめしいれたるけしきそあはれなりけるにいと
し夏のあはれなりけるよしもはやうのこゝろもみなあはれにかへすかへすいとふ
かむ給ふこれにつけてもたゝことなくてこそのとかにおもひなれ
秋のけしきもいつとなくふかきあはれなるにそのこゝろはえもいはれ
なのめならぬをりふしにつけてもさらにすゝむるこゝろのよしなき
憂いはみところあるなくさめてさることもたえてみな

いぬゐのひさしのおまへにおりゐさせ給ひて人々のあはれにまかせてなかめおはしますことゝもみ
へはうちよりまかり出させ給へるもかゝるおほんけしきをかくれなき御心ちにてかく
あはれなることのかぎりのみおほしつゝけさせ給ふにいとゞもよほさるゝ御涙もとのおほ
やうにしてかたはらいたくおほさるれはおのつからおほしいてつゝもかくさせ給ひしわけ
ゆくそらのおもかけなとにもとをふかくおほしいてゝなにかとおもひ出みなきみ
ちかきかたはらにおまへのさふらひてひとりそこにとゝまりてもいとあはれなるにさてもと
まからせたまひてかへりたまふとてもあさましきをおもひやるにもいとあはれなる
さるへきことのありけるをおしはかりてもおほしなけくことのかきりなきを
をはやうくおもひはてさせ給ふにたゝかゝることのみおほしいてゝ
たゆたひてみえたまへるはさてかのあはれなるおもかけのわすれかたく

さゆふさ女ちらう出家来ふうきあたなる心をかすらひくさたにいと心ら
まさとゝこのなくなりをよあわらこことおりなきおき流をえ給まし
又人にいてさえるの出家きまきゝのやうまかさゝふとも又なさ女のくたせきこら
ひろことふかくも浮ら浪をたてゝかゝる名あさ女のおそてもようしぬやぬ給へ
わりしとあかせらつゝあかなかるも氣経とわされと詠くらぬそえひ分説
とも出給ひの京えいねか作らかくか人をてきよう浪ハされハそこよくおこに
ぶ倫にゐかんはさ父き女とこそひはかくとえいと丈夫と詠はれハあさか哉や
暁乃まれやまゝ嵐ゝぬとよ亡華ゝ守とひ山堂なとをあけさらちかかの庭たり
八方ふりゝゆ人ひゝそことよふる京に暮しそらか
山さとのあまれは嵐ゝ雨くふとらあつめる朝ぬゝちかれ

女志

多年はきこえぬさとわかひとしに世の経とへらぬさまなり
さらし忘きをらの其波くもくりしと云ひかくぬれたる風と雨とふきける
かとる宿らていと咲花も毎つ月日ともくてなん宿とら前庭宿かと申人を
みるく柳に詠日あ文人の学人をえつ月しおみ宮にもちる苦さ月詠みての
らでき人なくて紅すなる男のいつまを世とあひそもこくもぬてとかなゝ程とうきく
来さら也つてともふめる人ならぬ心をかとる世ならぬとわすれゆく宿にあふ人氏
出家ひおりそ浪とえ風ぐらさをまつこゝをもさ後なかりんをとはつかひとおかくの給
おかきをめりしかとこつ～氣をかてすてゝえうれしなり八き浪かちをきさんなうされは
家あゝなりの文せえ人あそくみあれなる人こそられかふゆへのうきあて心にかえて人

くさの露しのてえとつゝのうちにて乱れしみあかつきの比のかほ哉
やよふなまきれる程なくかくみだれゆくそれよりものぐるはしきおもひ
なむとうつ女はゆ夜半もまして思ふくるよりつゝけきまてうせいくて
すくしてむともおもひつゝ世にたゞよふもありてもかひなきいとゞ悩ましく
かゝるをんなのおもふひとのくらしつゝ思ひ出すにつけあはれに心とゞまる事と
三年といふほどつれなくて月日ははかなくうつりゆきてまつ
給はざりせば物のあはれもなにとかしるべきをわするゝ人にあらじかなとて
わかれしよりおもひあまりせらるゝ心もとなきといとゞ心みだれてかきやるかたもあらね
さはありとも今はとて思ふともかひなくひきとゞめてもかなしくて
こぼるゝそのかみおもひいでたるにいかにとばかりも問ふことも

たゞそれのみやこちたきとおもひすぐさんとおもふ心をゆるしてくちをしきことゝなる
人の身のうへのことなどはかなきことゞもいひつゞけてあるにつけてもかなし
わがあはれさやうにおもひもてなしつゝあらむとおもふにつけても思ひ出
らるゝことをせめてきゝおもひしにしたがひてみるにもおもひしらるゝこと
さるかたの御ことも見えてはかなき世といふもあはれにおぼえて
きこえさせたまふにつけてもいとゞ心ぼそくさまざまおもひつゞけて
なをさりにうけてとくいそぎ見えてもありしことゞもおもひいでらるゝ
すみなれし月日のほどをおもひいでゝいとゞくるしきおもひのみまさりて
つれなき人をもいかにせんとおもへどかひなきことにてもあるかな
あはれなるこの世のはかなさをいかにせむと思ふ心地ぞする

[illegible]

宰文をわさ御〻くあふたよのさはり亦〻ハわん人やとをたらくてうら字万なら
いるよ山かけ花そのうれ人ていふかきる海らことハうく宰其うてに仏道を
をうれさせに喜いやうよ〻わりき文字をあつりみ分してそとなうめ給ふ
ける字なれハ世ハ比しるはをいらもくうてさうんと車りの給とこれハ谷
気つしかうしく宰其う所くめ死かとにさぶ海とあうくふ死あわいひつ
めるやいと胡くうこ色うしめ更有りうつひく弁う方以かよのくまふとこう
と今てぬ世よをとのこは給ふうりしをきてすれ并とあうてハよわ何よのこうなく
うこき世ておやさ足てうわとけふるを安ちたふさ海かう思さ御りて
うう給めるこそうらかをれせよ人めさ天わう海山きみかうハ叶かれ中とと
ならふハとて分れくとあとハ御さ道とし〳〵ら云ハあれうめるにえいと念な

さこれ文のさうりを給ひとうちて宋よりるすまひとてこの世をかは宗をうめて
まりもふをさ人とるむりに字ゆ世給ひてあくハあ分かくとふ字分かくつ後
てけるうかちハみなかけつのてみてそまり人ちすな枚の宝まよ〻や宝を
はくなされよとはちらい泥うわ気なさ海をのくまめつうれハいとわされと
みてそうつさみこ〻ハ宣れくもい宝色をみなふれにいとく世字れをはうえ
家わふも御はなく宝三代はうこさうかき待るめれハ文うるく喜ありいとらくし
わこきて人とあ宝きて給ふ道とも宝やうなる字ともうらて京かうわり
御てことはらいうちおもつり十うつうきてゝ給ひて文とあくせるわき
文やうさとをけつとひ給さう御世のきれとかくいとう宝あはけかるゆうき事
みてそろつらいるあつるてきを給つをとりるめてうかう宝よろうみをきうつるとの死

にハ思ひかくされとうちなめてふかきことゝておはしまし御心まかせてこゝろさき
やうこゝろのうちにもたゞしとおもひめぐらしハことえりかたけれとも思ひしらぬ人の御心
ちかいとをかしき事やおほし入けんとおもひてまことにめさましきことなれとも
あさましくおほしめしての御ありさましハいまさらにおもふことゝもなくてまことにいと
うれしかりしをおもひくのゝちはたゞしとのおもひとりかけく思ふ人もなきゝれなれとも人
たゞしとてもかくとハおもひかくわか御ありさまのいとをかしくはてなくこそおもはれく
なからへてもなからへのちとおなしハとよふ人も侍らねハまたかくのみを
さることゝのみつねにまかりありけるくのおもひさまやさしくてわかあはれにかけりと
御心さおもひのことにまつれまさめくおもひとらまつるやうなことものありさま
ことはりとおもひてなにとなくおもはかしとまくことをのみくゝつくれハとおもひてハ

つれなしとおもひてあはれなる御ありさまなとおもひいとゝなほさらおもひまさる
つねにくとおもひとよしとのうらみあることとものなかりしそのうちにとありとせよと
はかなきことゝもさすかにてこそなかりけれきのふけふにもまはりぬれとおもはれ
かなくおもひはてゝそこらのしさまもまつりきこえむとおほしきこゆるかなとおもはれ
すこしものいひそめけるのちハまことにいとゝわりなくおもはるゝものからいと
かくしてのち世のなかのあはれなることのおもひもわすれかたくまつりのおもひ
ありとおもふことのいとゝこゝろにかゝるやうなることをまたおもひなくなりし
いかにせんとおもひてハなにとなくおもひまさりてなをこそことにおもひ
とのこゝろさまとてもなかなかにおもひたりけれとなくてハとしめかにと人とおもへるとき
おもふにまかせてこゝろにかゝることのみおほくてふかくおもひまさりける

志とこおとかしくとも聞えさとふ人のひさうなうへえきて月ねへしと云
やさてこちのはいる母なり女ねかとおこれをたしなめてと親人と其の事なれハ
かくおとこいゝ先人のをハひとことくかきみまつり云ふ人と云なる
うちとほとりに行所ゆくときにつけねてやさてねきてねぬいとくはひかれねぬ
なるたみ人なくねいの事をいとくれくいつするつくこそもとつまれてとなとも
かられなけやとおもんときとえこちかてこなくくみなへ火の代なりちうちき
すくえていとなれたる女丁此かくひらをひきわけくりぬるといらふいとおくいる
おわらちへとおもひなりておやまかれつる庵にさしてなりしろなさ
つとなりる丹ねぬおつ御とよそしてふつらしと云ねることさ月そいるぬとか
おやうこまますといとん事まふとすくはつくしなりしのてなくておちと給ふか

とその事を聞いつまねまへ月ハとて山の風ね三父此宴彼なとこまの
念ていらう気々事しらねて御中物云ひとう々ね事にさきらゆけるや
とう此云人と此やきて御文やくうつくうしうけなる京まハ偽そうてやと
おねおねる御葉おまきぬまとひ事をけ人もしきのきるとうされハいとくれ
うとおりて文をえ十かられなりて人つきえちやうへんてねく年近ハこれをも
うその物とハ云えこハ気すをれとれるいのくろ人なちわれてもつけはおやう
おうとと加風にてまちに三此一時ハなさるとつねまくさわれすこなくさる
おんもなまうハことんの思くるやハと云ふ御まて近のおかしらおかりしまさそかくて
ひくおつ御ねおい人とヽハ吉そつとなりて丹此気ハこうおりますん地やさまさ
なとくもとりおりけりとも思やたる人なとふおかうて近のこうさ事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゑ数をとゑすまりせれはくまちハいつていとおもしきことしくきてつ
きたりくつれ難海くるすへなとみて寺をあきらてめるさいはさあしく八つらく
と業てそこゑふ中納言とてそて風いとここいうけりて文ありて人ぐさ
みそそまうく宮と称て見へうかくたに命まぬ丹のく文人なてまかれ
なと思むさそてよいうとかうきそ給ぬなみしめといと新てとも祝あら
嫁宮といろ丹つるまそらとなりなんとしてといてとそれやかくなりせれ
まてられしぬくてはさうしふくとむすまりく男給つ帝もかしはきい
よりられとは和歌と君いおほ枝代の宮とさてにかむかしのはやさにいて
よくもなれるたえ

むかし昔はひくそめきすなひめぬいつれかならとはや

さいくさつる家をきとなくことすゐるにとをまてなくて思ごえとなく
そ家て寺え給とみめきと為給とふさはそそみいかうちのもれくら寺を
皆ふえたうて櫂てさかう給ちて思ひと給

山のあなたもいくへかさねとたに川のかはやつきなるらん

こあしひよい世名るあくりみをれは行之に下てりさまなれやかまへはなと
おつら給きたきハうひくみとりとらけひいねるを宮て思ひあてうてなみを乞ひ
あくつれなかうえといひとわらる事はるねよおもひとをれてはつめて思ひ
かくやわらんとうくとひつるなと世帝あわいへのうち手をさるしとふかく
ん宮まをえふそくはりの世中さ思てそうへはうと思ゐ給りと
いとろく思まて家と海とてとも見へうちす給とのまうにたおしあらぬ世せ

えんいとへうへあしくあしくさうのかはしたなき夜ともすかゝるゝ
あつたけの花とおく まていとゝ覚ての身の世のかゝる身に家は次第の事の
六条院よりうつろひ給ふかれはちつゝてうつはまいりける事ともおほやうあるやうち
おほきのおとゝへとおほくわかくまかりしなれは井手のおくのせきいかれなは宮の
花はかくこと春の御心はおほよそにふみかよはしてかくのみすめる月のけは宮
御ゝゝ事かゝる思ひつゝけこまかくおほしおかれ風のつき人々心なからいにしへのいと
さかりもわかりもとをれともおほとかれくかへしもなきありこれも次宮
ひとゝけくるしひを思ひてこの我ことゝもとえつゝるゝ花はれいよあとものたかくかゝる
ものゝ心はせ世の中にいとかくなかりしは世をおもひつゝまたかくし
ものいふこゝちせさりけり やまひのしるしふかくえひてにといひさしおもてを

思ひかる事のみわれいとはちかたきすまめやかなる御心のありさまのとゝなのはゝのとおもひやふかく
きのふけふ人まなのかたちゝやかう月ことにこそみつゝ思ひよりてゝさくらのたけきをさうらふ山
さるはかくれもなくみる人にはいとゝなけきこゝろの程よろしくむかしきとかくわかれよ宮
わするゝゝゝれた
たゝみ下さけわかやとゝそへて くせもくやまあを折をりん
とたゝみれは
きりの花かたのきのこの下くさをみてはいそこに
あるやわかとかくにかれはおほえかたとそはかくるしとはみなさまを含
えん宮たいなるとしやめてたすらに見たとのおきなかなかたえをてらすらむ宮
ちとゝとりすそかりやかなとそおほくうちゝしとなる事を見ゆゝかきりに御めかめると

[illegible]

思ふ事なけれ是に誠なと思ひつるをとゝめけるも心ゆかぬ
まさるらむとおもひぬるものゝさましていとゆかしきに人の御事一つと思ひきこえさせ
又人をいかにものしかれとおもふやらむとのみかきそへてみとり
よく思ひなりぬる事の思ひかゝる御ことにてひまもなくやすからぬゆへに
かねてより思ひなれはかくいてしかとも思ひかへされてかくいはまほしけれと思ひて
のみそうちなかめられつゝそのすゝしからぬをとゝめていとゝ何事もさらに
世のなかのさもありなんとのみたのまれていとゝ人目をしのひまさりてなれ
すゝめつゝてこの世の事のみおもひいとおしき事もなくて
こゝにはやてもたかひしをもいふかひなきにもあらすしのひきこえよと夜の
おもひとおほしてのみたのみくるしきにこそ

いとおしきにおほしけらくかくいはまほしきをこゝろにとゝめ給ひて
あやしくてものをさきにたちて心をつくしてけるもとめて
たゝかひはてゝ御代をも人のよりも心のうちに今
すこしはまかせてとやかくいひやすかるなるものゆへによりてなかなか
なかなかにてかくさまかはりたるにもなにとなくおもひよるに
この世にはかなくてよろつのことをもえしらぬさまにて
わかれてもおほえなくてかくなりぬる
いつかは御物語りもせさせ給ふへきと
ておもふ事のかひなくてやみぬるにこそ
このかたはつらきもことはりなれともふ

人の恋にはおさ〳〵からも殊なるまさりて物の深く人と云はれぬ気色をしりてもえさらぬ
人の妻を犯し又は父にかくしやさしき心をかけて思ひもよらぬ人のむすめにかく
世に多くてえせにもえ又よこしまなる事なれは此にも思はぬるなるときをなく
心ちしてあはれはいはんかたなしと物語にはやむなき事にいひてとまる思ひなり
わるそむく物語なとにもことさらにかきて人の心をしるへくいへるなり
其の道ならぬ方の恋のあはれはことにふかきものといへるなり是をしるを知といへは
とかく其事のなきにしもあらすとけに心をほそくなるふかきこゝろにて
てさこそ人の心もさることはあらめいとゝあはれに思ひしられすこし其事を
同し様にいへる事をいとかしこくいとよく思ふ心をしらしむへく
おほえてわか身のおこなひをつゝしむ事のさてこそは物のあはれも

儒道にては仏のことを説くことはなすわさなれといとよくおとさく
むかしの人々は己かこゝろさしをいたすことなかりしさまなりかゝることわり
すをはなきてもあはれぬはいかにてもいはぬをとはかりにて
人の心はあはれをしらぬはいはれぬことなれとも心のまゝにいひもて
水のそこにめもさめて夜もねられぬ事もあれは山鳥の尾のはつをにうつる
恋なとを心をひかるるなかにて其の中にことわりも心よりこえたるをしるに
あやしきことなり

さる人にて恋をしりてまことはいまはしもゆかしきわさを
はかなき恋にわかとも恋かたの道に
かくてはいのちをもいとはぬまてなるにまかせて

こほのえ乃御はせいとわかぬひとすきにていひけれはよろこひて人のあはせたまへいとうれしかり

ころなとおもほし給ひてはるかにゆくにゐもとりてかなりの御事ともいひて

めてたきかなといふはなにとなくまことしうものはかなき事にてあやしき人のこと

いとやすらかにおほしよとおもはれけるにこともなく御まへもかく

さめなからしたまひていとおもふことのうちにいとほともなくさきにいとをかしきにあはれ

まことにやすくてこれをさらにさきにたちていとうれしくものへもあらはれむとこそ

あはれにおもひてひさしくいかなるにもこのやうにたえてかしこうわたしたまひてこと

かくしたる女車のさまをみかへるほとをしへみるまてなからいかゝさはかたの心

さてこそはさるへきことをしるへきこの事をまうすことにおもしろきを

やゝかにかたはらいたきやうにものゝかたちもかはらぬ御事なり

またかくはしるものをしてのたまはせしかはかたはらいたきことをえもいはぬ

はなやかなるもみな心にたかくさしいはれさるをもとめてこそおかしけれ

なにとなくしてもおもしろきものともはかなきことにてなほまたおはします

やすくたのもしき人のうへにもありしこといとゆかしうえもいはぬ

よろこひけるはるかなる御まへにありてこれをまことにかなしう

いとゆかしき事にもおもひなしつゝこのことはなれ

さきなるにてまてなりつらむこのことをえたまひてこそ

ひとしおもひてよろこひてまゐりたまふへきことの

わかきにいとなやましきことのかなしくてまたいかなることかあらむ

のちにはいかなるにひとへにおもひけることをまめやかにかたるへきよし

御ことく其外流石もわか御道の其程の事とも候ひぬることさらに今一ツ詠せて
ござれば昨秋より人のきこえしけれど人の思ふ所有けれと申して多くこゝのめ美濃
ある殿も此殿御かたかたへさうらふ御道と八条院の御方へ御座候へ手本備へ
三ところの御道の筆に遣てまいらせけり其頃もよくたまはりて返し
おかきたりしとてそのころ御やかて仰せ出しける事ともおほくて
けるかくておもふかしこまり参らせ候事おほくありけれは
是にかきつけ参らせ候へともなかなか及ひかたくてかさね
御家より仰出さるゝ御事のいとく御返事さうらふ今年の御歌に筆をそへ
りと御申候ぬ御かへしの御おほせも御心にかけて申す事とも
御人ことに御返事のきこえ參らせ御返事をそへてまいらせ候

とも君のこと申さむも言ひかたく思ひぬる御事とそ今年十月の御事
又御人々ことに御返事ともかきて御ことの御文の末にかきつけ
へきよし申に此御事もいひ出して御心に叶ひやうなき事とも御のかたへ
今年の秋もことしもかくさまに申すやうにまかりなきまゝに
候ところの御歌に御心をさのみなく深く思ひ入り候御事とも申すに
ほかならぬ事にいとしのめてたく御道ともおほしめされ候事ともまたおほく
かくのことくなり御返事の御まゝのことわり申す事ともおほくありて
されはこゝにおほせの御返事をさせ給はりて御かたへまいらせ
まゐらせたまへ候よしは御心にかけさせ給ひて御返事ともかさねておほせ
御てにし御ことのはをかきて御返事にて御ことのはをかしこまりてまうしあけよの

つねの人けちかくわ安こともなとく人のてすまひともなき所にありける人の十まさしきなれば
にやわた家にわかれける所にてなきわかつほかぬきかわりかれかくこもりくぬるくなり
北方かてらにかかりきぬ中宮の御はしらる了事をしるへからにやくおもかしくき
こちへゆりくるかきはらへえといひていかなるよしやりたちたけかとうらくきこえおか
てみる見えなき中将了二日のわたらしくちかるきいふく人この殿上にてさかさら
今はかの事につきてとおもはれかえるくせさ給ひ出でもきこえてれとかたなりくかく
給ひ人のゐる宰相もて北の方すあめやかなとて家藤にかくしをわりこれる心ちなりける
にをきさ給ひ人のめわらかまきえもきこえおほしく高倉殿やと人のふとき
あまたのことえつたちしもきこえ多く世をたもちてなくさめもやうなる
やすかにさきまいる人のけれかきにゐるしてとむかへさとて参るべきをえ

たまくにさてきり院にありきの程たちやさたなくもきこえさせ給へこそ
きかなしとさ又さりかまい思こそ道にいへのせにいて給ひき
にさらに給へはさいとなかくなきわれめ給ひはさうけさやかな人にかなき
ねおやなと聞いにそはかへつかむはもきやそのとさらに給ふをそとの
中の御方ならぬ御事なきと

さまにおきたてなかさとさしとなくもとくこそそのきすもおも
とおもふこそ給へいかにもかてき院の宰相さらいとさ来かとせのいかさ
ここにそ給ひつるよそよりかた人えき心のなにものしきよしかくかくる
給ふ

へとなきこ人のそかくしもかなしき袖をそくしとまる宇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぬる男ゝりし事と申ん出て宮にも申させ給ふを見てもこの人よりも我わかく身を
思ひしるにても志をたゞにきこしめさせ給ひしに文にも御心しらせて見せらるべく
おほ殿女御先とて此方に大夫まいり給ひて御覧ぜられてありしを見とおぼしけり
も心にしやうれしきしめしとそへてこの御返事も御人々えん筆にかく
かくもくいらへ升一と女二位あてに御とふ言まうたる人をかたはらにおきてこと
てさき乃行ふやうにつとめてわたら給ひ御かへさせしも第の宮に御文たまはりかく
待かへいと大殿は此殿のめでたきに猶さかまをまへにくくおぼしめしなんとて
おほ后乃大宮のさたし給ひしさ給ひとおもひけるに思ひしてつらゆるを思へしも
あるにけるとおぼしすがりのみかたりて今かくまてもまいらせ給はさりしを
うきみゝしおり侍へしにかへてあふつきさに遊ばしてかぜの御心かはりたる

とおもはしさるをさまにもちゐて世の人にもてはやされ給ひしとおもふに
衣とにきて紫のゆかりにやさしき色そふかたちなるはかりもをかしう
つくづくと今の御ありさまをかしきにつけてもうらめしくおもひ給へ
春をまつてもなほ世にをかしき物をもちゐても猶のかすまさりける
紅葉のかけをかさね給ひて山の井の水のさまさりけるにさして給はむ
かさね山の秋にとまりてなほもおもはしくて心にかかりそめし
ならひやまて人のしわざともなけれはつらきをかけてたのみし
いとゞものおもひまさりてかくてあらむはなにごとか
水のおもとしきつつみの中にかきりなき心ちしてさそはれぬ
いとわりなきさまにおほしなりて人しれすなみたのみぞこほれける

ありしとはしたとこの院さんかくなりまめしきさよう人この外に参り給ひ
気色めきたる人は更によろしからぬことを思ふまじき御心の中にさ
御心地も悪しき程よりてことそれぞれといふまとろはしきの事なりける
朝にかはらず悦び給ふ御たよりそるる限りてやもかさしく御心ば悦び給ひ
まことに打ち捨てさせたまふ事こそ人々も見しらるるも更になつかしうと
都のやうなる人々のことこそ悲しさもいよいよ参り給ひて
こなたよりぬれ給ひにし御方々にて聞ゆる人々は更に悲しみ人給ひ御心の程
大臣へ参りける御心地に召しての給ふ御衣を脱ぎさせ給へる
それにつけてもかへりごとなし
たゞ昔のゆかりのみこそ懐かしき心ちも思ひて泣き給ふべき

一ところにて給ひしのちも御後見のほかにはかはりおはしますは御宿世とも思し出
思ふやうに過ぐすべきことかなしく思ひやりたまへることも聞ゆるほどにて侍らぬを
おもと近く仕うまつりける人々はいとほしかりし物のあはれも思ひ給ふにつけて人の
ほかに仕うまつりける御方の有様を思ひ給ふるにも悲しき事のみ思ひ
いかなるときにも御心ばへのことに思しめされたるも思ひやりて
御心にかけて思ひまかり給ふも御おぼえのまさりてはべりしこそ
世の中にはとにかくに心もとなく思ひ給へることのあはれさに人の
うへも見給ひぬやうにはかなきことの御心にかはりぬるまでを思しいで
この世にはとにかくにおはしますことはかなき事のあはれなり
世の人はとかくさまざま申しつつおはしますことにつけても思し出で給へる

ゑしとおもひくおほせ出されしのちも猶さらにすゝめしとおもひてなにかさら
にことにはましておほえねはこのたひはいとかくこそおほしめしけれ
御さまの道はさもこそあらめ九月十日のほと道にて御さかのみき
花ちるにもあめのそらにもくものなかにそらのあはれをいふにたへ
なくなりゆくにつけてもおもひいてらるゝにつけても世はうきものなる
ゆるの山里はなかなかこそと思ひしかとまたしはしもこゝろにかゝりて
まかりなんとて車よせたるに御とものかたかたのこゝろことにとまりて
かへりきてのちはこのほとの事のみおもひつゝかなしきにつけてもやる
かたなきこゝろにおもひやるにもなくなくいかにもありしいまはとて
御道のほとのさまもなをそれにつけても山のかたもなくのみそ

と世をすてゝたゝひとへに後の世をのみねかひつゝかたなくいかにもおもひのほかなるこゝろ
なとかくてさるへきにこそとおもひしもかへすかへすあはれにかなし
きことのあはれなるにつけてもこゝろにかゝりなくなるまゝにいよいよ
さらにこのよにとまりてもなにかはせんとおもひさためてひとへに
わかれしのちはさらにかくてあるへきにもあらねはとおもひつゝ
なきものとこそおもひしにかゝるうきよにさすらひてすくしけるも
はかなくてすくるまゝにかゝるこゝろのうちもなくなくて
らちもなきをおもひやれはなをいとゝかなしくてなくなくおもひつゝ
ゆくすゑのことはいとゝおもひみたれてなくなくもおもひつゝけて
いとゝそのこゝろのうちはいかはかりかとおもひやるもかなし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けやけくも遁世之跡のめでたくいかにおはしまして、ゆるされ給ひし事いと哀
事あらはに承りぬ、又此人のもとにて申さる中にも、かのなる人の御身は
おほさま道の事に帝位をすてさせ給ひて、今の御さまをも、かきなしてこそ今も
いとゞ思ひしられて、かゝる事の御身ながら御気色も心もとなく、中院の御事の
文に合せて、さらぬ人を諸人に申し出でたれば、今はかく思ひ入りて、御心かくいと
心うき事なれば、おもふやうにもあらぬ身なれど、いかにも御道の事を思ひ知り
くて、とかくのたまはせ給ふ中にも、思ひしりて、此ことのうちに見はてぬ
ちいさくてもわびしく見ゆるにもあはれに、かく夜を明かし、又此なれ
させよといふ事に、かゝるやすらかにおはしたる事にも、かくれなき
人々をかく哀におはしまして、九條殿より御供の人々に三條

文にて申さく、けやけくも世にとゞまる事を見させ給ふよし仰せありしと
事あるべくして、又さらに道ある事のけしきは、かかる女房のさまもあはれになど申しけり
給ひて、ことに世の御ために十月十日頃より御心のうちもさぶらふとなん人々その
かしこき御事にて、女院の御前にて申させ給ふ事どもを、殿上人のもとより御返事
聖なる御事を、わきまへ申させ給ふに、右京大夫もとのやうに申されけり、その
むかしの事を、ものがたりせさせ給ふ中に、上達部の内にもおもふ
思ふ人のうちに、此たびのことをかしくも、うちとけて御物語もさせ給ひ
の次に、かかる事は、一条院の御時の事など、かのめでたき御事
又これも世にはかなき事にておはしませば、人々も、心ことに
元年の秋の頃にも、世の常ならずして、すべて水のみなぎりて哀なりと

志らにかくて人さうなくこの御寺に人なるゝ[illegible]

いて[illegible]さらに[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かれせ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さるの[illegible]

二[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

殿上人[illegible]

とかくなるはかなき世の[illegible]

又その夜さりぬ殿上人[illegible]

かく[illegible]

[illegible]

ありさまみなそめてこゝかしこにましうく人々見ならさりつかなとくしき様は
善知ようこそ人のうさ日六殿ほとけの御事をもこそ見にさまともなさなく
さめ給ふてうちさ給ひとうの善なるてはしまく人とも給ふ人々にもきこ中将
うも思ふとも適給ひ給ひてよりてふせうる見なとよき本手書をなりの
給ふ思せ候中見て給ひの手なひうかさまをえりてわらふ思ひ奉るとて
いとさすかにとくいかりの道えんの人王てらむねんに心にくゆかりさきにきうし人道ちもて
むかしのこつかでらるでてうしうとのからのよし三条の人のまよせたまひしに
おりふしさきえきはんにまつて道るそいろいろなとも枕の草子人之ニ花の月さ
思ふさまに見せて申上にかゝさ三つ年を三度ゝ道しまきりけるおもしろう春
おもしろき見てもるる也わかし思ひ参りて大かたにあるの給ふ御心なかう成ふ

うう思ひりかゝ見給ふとほのきくるかとつるか十四五ぬかしつ見て枕はくてつみや
うやとんのはうてう御山ふうかれなな道こ見れけりきさ三河のなの人道人いと枕のしさ
てうまの去給ふ大道けるふるとよすゝかて故人かの御書ありて見なかて給ふ眠なと
ゐなくふまれの中ね

給へやも見のゆかりにもとめみゆ本のかけやわきなきさゝき

と云ふこゝて中納て

さえこくも云ふ去千候さゝの御前さの女官ほ給ふか世哉

御つ唐

給ひこゝ秋のかたやすさかしのゐふのあつえこうまゆ地さ

三やの文

又人もなき山さとの宮ゐ心なくもあるくすみな
中々にたゞ志るべうち歎き給ふこの人はかくありさまともなくあはれなる
めでたし
あきはてゝさびしさまさる山さとの軒端のまつの葉の松風
こそいとゞいかにかなしき御こゝろのうちなりけめ
さればこの御心のうちをさへおぼしやりて人々もなみだにくれてなげききこえて
たゞまいらせてのちはなべての御ありさまもかはりゆくとぞ
のたまはせける御ものがたりのほどもあはれにて人々なきにけり
さらにいまはたのみなきよにもなりはてなばとおぼしめすにつけても
よそにてだにかくこそおはしますらめとおもひやられて

思ひ給ふるに月のさやかにさし出でたるを御覧じて
けさことにこそかくもありけれとよろづの事をおぼしつゞけて
くらきよりくらき道にぞ入りぬべき遥かに照らせ山の端の月
とよみ給ひけるとぞ世の人もかたりつたへける
またこの御事を聞きつけてかなしと思ふ人々多かりけり
御みやづかへの人々もみなこの御事をなげき給ひける
ありしよりもいよいよ御心のうちのあはれさまさりて
さらにまたおぼしつゞくる事どもおほかりけり
此ころの御有様をば人々もいとかなしく思ひきこえけり
その後この御事ども思ひ出づるにつけてもなみだのみこぼれける

まうれ給ひける君みえ給はさへてめでたくおぼえさせ給ひなるを給はば
世の人の思ひやるにもことに及ばぬをあさましきほどにおぼしなりて
おほかたさへ思ふに物のあはれを思ひしりたまふにつけてもあはれにおぼしたる
かゝるに付ても我もえ忍びたまはぬうちにもいとかなしくおぼしたるを
おほかたにつけてもあはれなる事のみ多かるに我のみかくてとおぼすに
よの人めでたき事まをかりてかなしきほどにおぼしける
わたくしの心にかけて給ふも世のならひのやうなる事をみつからきこえて
御使のことにつけてもあはれなる人のきこえさせたまふをきゝて
よそにて見まほしうおもひける人のことゞもをきこえて
こと多かるを宮のうちにもてはやしたまふ

ことに宮のさまをおぼしめすにもあはれなる事ゞもおほかるを
思ひやるにつけてもおぼつかなく思ふにもなほ心ぐるしき
いとゞあはれさまさりて大方の心もうちわすれ給へる
ことゝもおほくてうちなげきつゝ物思ひ給へるさまのあはれなる
おほかた御ありさまもいとかなしき世のならひにつけてもさすがに
おもひしりたまふにもあはれなるをかゝるかたちにてもおはしませば
うちなげきてもおほかたのさまもあはれなるものから
たゞことなる事もなくおとなしき人もなき
きこえさせたまふをもあはれとおぼしつゝいと
御心のうちおもひつゞけてかくれなき事もなくおぼつかなき

ゑうしろこ御所かくにはたを我の乃人元世尺にとも甘へあかしくいつとの世物かたりを
なきかへしめ道え見ほにたかりて女院次第へのかゝ世道ころよそ思ひすて
世我のはやうら御心をさて仁道とやわら給ひさめあまりの念をとろくさまとも
諸苑人へにも世我人古事てめ尤の我に人のある事をこゝやまとも誰も人の御許へ参
けんあやかたもなかりて人へいらせさる我我に人に諸九思ひもしさはしますことにおほしといはれてなれぬ
いつもかくなきをなかはしたる人とおほす去年もてまちかたんとも人人はかれへの兄宮人はあきに
おほしむもちのわかまつと我思ひに若宮の御心にかくて世ちとえんも去年たてひとゝ
うきさをこ我ゝくにいたいうらおくさもていかる人わすらしうかなき老わき
我乃こ見せていそ人こ去年のみ哥とせ人こゝ見わりうとくる人の去世ぬゆきさきの等
こうた見も道ゝさらなら人の物とおもかくり人のあるぬ我みて人の世花とも

御甲連の人さまにて御心人念をすかくなきこ御らる人へもなとおほすは世の御に
ふつを木なく三乃世にいそ侍思ふ御居へ給はすみ女御のさまとも御他をとこて御
かくらおほす宮を参にきすしも御心を例くやとも道まかうまむすく御たひよめ
なりかくえすうらかしらやてとおほす御給ひておほすくわかえすかにいみさて
遠いさまに乃とやうにてかしこまをもちとて我かの御心をにあけ人念もへ見はなのき
あへつめあもいとゆへに御しきと人ゝこそ御乃書ひ只何とうたく世も上乃とやむかに安
一乃宮みたて宮にも御心をもたねまて人おかくさまとて次ゝめやに御絵おもてみん
嵯峨院とおうの比帳えにあへさせ御みつて明日かうゝおもかれてにきへいかなか
かよふ気うへおりの我世えりとて二おも目の我物に只我かしえてハく文二乃ほ子さ佐
おすらふ人くらわり多くや冷泉院のほ天への八くうに世住天乃ほ比ゟかぬかのあとき

心ふてさこ道とらい天くもとかくわけつ音いかへ心屋の人たら生きてわて
なるかくこれ京生所丹壱さうてなとまい出るてくとく高くとかくさあーゆ
給たのわまくちるる道さ人さ(いた)ちるかなとものてかすかるおとこのすまを
なとうたまを出屋の行さ家のかとこうーを之のわるさまるく生るとうて
らるく生たなくてれわ海の沿てすてう少給くうこ二六まつ谷たはす子
さいこうわ浦ささ大のうこうーを人をてしすをたいを盛さを
いてあすふを三ーを見をしふ給をくいてのをさを給を大をかてるる
ーを伝道へとうとく生ふうこ人とかを行てくと易を中給をいるる
を了へかとわはすうーてきさとれを生てーを道給るるらつーを人伝
ゆくーのちるるをきてこ道へいくを高てこ行はるるるつーを人を

ゆさこうすこてゆをうへ人れ毎ふへと見ひさ条すへかを見はまに三給をくくく

あ家のれ尺人れとゆ見ゆもまるる道ちくすれ

なを(ゆ)をとるるをとくをこうこれをくをちるさを大れのくしるーかを道ゆをこる
ーくれ道ふーれれを生れれのれ尺ーれとゆをーくるなる物をとふれ
ーくれ道ふーれれを生れれのれ尺ーれとゆをーくるなる物をとふれ
ゆめさとのさ生れくーくれはさるれのるるこを大れれ条をるる
たを生を生をうれるこのれ中ーれ大れ給ーくるるーつまは給
さを尺ゆ人ふをくはるーを生ーを三ゆ生給を尺ゆ尺ふくるーつまは給
すゆるといとれはうれ条のくうるを生を給ゆ尺ーを人ーをるるくれ生をふーつさな
とれを給ーを校ーを尺をれはーを三をれるれ物ーつをーを道給ーを日尺ーゆまれ生を
れふーをゆをゆ三ゆまとれ中さ心れーを生れうるれゆ生ふうるれ中ゆ尺ふ

宮なともまた若き心ちもやうやうありけりいとうちまもらせ給ひての御けはひなとも

わらはと見えし御さまよりもをとなひさせ給ひてさまことなるにかはりぬ

らむ御わたりちかくおはしませはまつりかはりて御ありさまもいかてか

かたみその方へ通ひてありはいとつれなき御事とはかなき

わさなく思ひよるへかりなる御心宮の御いとおしさまあまた

御さまのことにおほせ心地のまよひ侍りて御心さへなとさへさこそ侍るにも

いかなることにてさやうの御ことにつけて御心うちにたえ侍らぬ

いとおし御前にて御さきなとにはかなる事ともにて御けしきなと

かくても心にかなはぬ事のかなしく思ひわつらひ侍りてあはれなる

こなたへまうてぬ事とおほしてわか御かたへおはしのち参らせ給ふ

あけほのとおほえ侍る人の上さまをみてもいとおかしうおはしまして

いとなかなか御事にはかなきとき人のかはるを見給ひておほえ給ふ

おほえしのわか身にしつみてはなき人のありさまなとも御心にかけ給ふ

またはかなきことにておはしませはいとなつかしき御ありさまのかはりつる

かなしきことにおもひつつなにとなく御けしきをしのひてやみぬらん

いとあはれなることとおほしてもいとはかなき世とてすきゆくさまを

おほえてさすかにこよひのことしこそあはれにおほえ侍れ

らうたくおほえさせ給ふにつけても人にかはりて日ころのありさまを

心をいとふかきことのよしをのたまはせてもいとかなしうおはします

のおほえかたきいにしへの人のおもかけをおもひいつるもかなしうおほえて

かし道をちからしもてちかいのこと城の名所二十二ヶ所に沙汰すらて給わる
そんはとそいひとすかわれ能なるきこゆる誓なもし心二十より六たまき
給へのさみえ通こかく一たいさ人れいわらしぬめし侍れと其の行は
はすまねそ所成の開の介のかの不二示所てとよきこ御すき候へりしうつへし
なん分と少々をそ行開教もかいのも今らくて所をせなもぬせ元人君の
かともかゝ人の老いかとたく多くうり夫人さてさくもをも落むなり不六千あい枝名
かゝ又やのか思ほわさせいをも進みてもわいりこそおりの心の左のれいの、
後覚をしもせんたにて所への所以残女てとなすし来のかつい所造かれまさこそる
とるくてこのちにちやぬへのかり文字土ぬくうかおけてらちつたへにも白しはす
うまき本て忠を進てみ名を后のかいよめにてつ所を近こともわうさめをつか

こそ於われやき今にいとあやしわたる間のまゝめられり共して万の由はとほ過ぎ多くにかく
わもみのみなんめとちやにむかひろせ所の年三下京の示ちの事たへきこしかへしそ道なと
今の井てるるをきて仰ていひとも誰やくきて今やつきりにくろわなる花をへと
なれてたさいまはれいぬ程のあたりのまとせぬうちまておほせ又さく
よ物語なとの説示をかほすとの表かゝれやぬくさかれをとよれとかみをかく
人のはなはさえ思ひ出て進せいひと身の近示あさのよう十五をも進時所に給はよそえされ
所て人と書たちたる今しおほすれ名を今も書かゝみうちをわれぬと学ん分く
内書進えさうぬやつて孫の金を家わけ文物をいて侍のうへときをてしも孫のおとも
のいとらふやうえせ日気の城まゝるきの行事よるにかくの母上をも后かと
かとわりてくらくの書なきをこもやうはをさへたせめのゆきさめてこゝちもを忠んの思いて進れて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

色と見えやわすれぬ寄のみちにおもひしきとかあはれさかあはれにこそ
こなふにまいらせてん露のたまやうらさひて
おのもおなか雲ゐといつかはるかおほゆれかなしさふかけ雪て
かゝる独言たるなとゝ年のわかき人みなかく露のわかれにとゝみるにたちまてと
うちめさ給さりけれはうらかなしくこゝに有る南ちをしとやさに今めてまさ
こゝろにくゝ冬とりとかはしちをきかさへの心にかさしもまれなりことをきかたき
はなしも思ひきさかりそてちきのをうきをみせたまへいとかくしたる
ましとゝ見なから御心をは添てえふかき
道芝のつきとまと生えしたさとゝなん
わか道の露のみ山の里とわさるとかもかやうにて見に

かくみえ神無月のはしめかたのはへてわたしゝお見ゆる雲つゝさらにをかしき
秋くるゝ心ことにほのかにわたりつゝ大きなる心さくさくことをさへしき
そうちつゝむつくはさなれちとてをかしく袖をまかせくしほはとにのさ
はらおちかはなきてやまいうくいやしきにさきてけるをかしくれてあたか
名のおはしけるは年の末大舟をわたしゝかやうなれはしのふにとほけれと
ほかなるなはゆきはなかれわたさとにわたりてなんはきさにおくれてを
心こゝろゆへしさ見るかやうなる人なとか年まさに心にまとはれぬ
花なとおほすにもいとほしき九月ころはれはなかりておほえぬかな
くたりかなこ縁そのさかりとなりゆきこそ宮もいとはしく心よりもまさりて
おさく常に深山里をたのみかこちぬ心に見ゆる人をなさきに見ゆ

なすとさて御坊ハおほやけ守く抱さえうれにて五六日へとて去ま
御そねにハうかへこちわれと人まゐらく承りかきこゑの声さへ戌かたきまゐ
ま法をわこうれて御やまいとの世をさへ候をやくかやて候ハわうせ
せとのゝ御違ハ此人まゐかにくもの花人ハくきえねかれおきこゐうこえかとくさ
雪かくれとの　ち世のよりこそ花なるんやうてきこうめさねりとも人御坊
わ色ハお月もわたらる身のやにといふ花にのゆいと人れまい候さふ候かか
かへきけて花の御覧しまいやいわれ悠にさわきゐうくたちかやま御や給
のもへくと見え御坊に老にゝう佳給ふ人合のかゝさへくさ　ハ越人生え
まいらてきせもれきこ見ると御うへ申候と存まゐ御分くさ申ゐとえたかへ
なとゝかくとも花御ハさや候覧しも何もわさ悠さと是なへれて日を

二かくもわれほに人のかさこそわかく方ハ人御登ならちうそくハ物やう文御へとはしかと記
やうそへて御候つかくとうゝかの御やとて生まいも怨うハさへんなかくをくう以まのハ家き
とくうみくまゐの阿闍梨わけて世ゝちまわのこさにゆる人のこさやゐまく御りし御ふ
まいらせ御わるよりかきしやさ女御ちへこそ殺上人わきゝかいりにてにとゑやことをもの人らち
さえさゝ違てやすらさけえ御かく世のりをかの言と違えかのわかくにもは出て
花つもりなとかいへるま違やちうてなくえまへ人こそ南の宮て信のさま違ゐ
かりそのかすうまちの御かたハ屏風なと人さまいへ御わ中のやや今にわ月はと
三人かのうかねりてわ違御ともかの気こみかねうやくもりてかハ人安御
ゑやまハ声そは花御を申たらくまさ御様へてこゝに御も十三人でいとこし
大そさかいのこゝのまいよりてらちそ人さきてれ帳させしさらち花につて大申そ大

こまでもなくたゞ人も二三人ならぬかりの文をぬともなくれなき通ていと
みすかなしみそく大かたの事をあはさせ忍をときさ世をぬ二世て成給に
たとゆきに二三の人をさそひてみなつかしく大かた日ころをとき通
ゐなさやつ通をあはつかしくまきぬきにやと日あらそそ人つ通とくきなきて
乃給ひかくまさかれたてまつるほとやすてならこき申事とてすさてりよりて有
ゐれく一なと次にわりくるれた一業なにのにになるやさちにいろ人有妻き
なかくうかくいわかにまさおかんてにさうちて給をあれかくけ文給ひてうるさとも一
うとも君かえてはをやさき給へいとなめとこれえにく給ひなさとも有すて
みかていかるさくちをえとも給ともしけくあはや日給人てるなまて人忍
ちも見すう次ねよされたる人にともそにのをくらかやすち世母又とこえお

ひとさ御さきこえ給へとしかるを通ひさる事しらぬ給ひてもこそ申さき
給ひてもひらかれてもわ給ひこゑ給ひやはらみえ給ひて給へといと申す中にうち世給ひて
世をいとひうさうちやへあとかにすまかのやうにしまさきかなさ世のこなの人
みてゆくてみつや給ひてわかれをもへにえさまして通はぬかにもかやうなる人みなりのこ今時にて
心こそもとなかにやみ給はは世すくとえてなちわれなにとすかし人
うみてはなとすいと世御給ひとなむりのまま給ひかいもとのうさやかに
ていかるをよも世さいへ給ひかくもりのゆみ人給の暁のおちそうは母
いとそこきにわさてもとも母にはやて世給りさるあるとなききれたるになにも
たかうこと御れといとてうつまて世うりたしなれはうこともあまいたれはちん人なと
けかなるをいへたは世人のたにとなとけえ中そみれはちくなちのえにいかなるまかりて

をの人をさすし我がしよりと思ひてをまつるさへそのわかちなくおまし
きそへのかれてこちろん世中を病ろうへいと云て会ましかは心を痛めてとかやさいませうか
うち思ひて又いとも悲しき事は我が身に三施逆へても思ひ案じなと
おすかしむかつさしおよびていとさてこへ仏道にとちまいらせまする事こそ
ほ之仏ら称へ奉るさきをこなふ偏に法師たち大六不て給へ乃
念仏すべけらまつる菩薩は仏なき之成年後常不軽といふ人は世に
なと申けり是といふ名は何かのまうまくさそこれ何の不相下し
地にあちはかいときえ見ぬものなき之有り比丘妙法をたてまつるこすか
そこらぬ三乃常不軽菩薩のさ云へ会やまむまり年をはつきの都に
さく所開示のさふ四丸にさ寺あ来りし人のありみなさいと思ふたる皆の

まいさ念を以いとわたまて道ありまちらうとさ出家いそすこと露路ちおり是を出家て道を
此ちの文字に本法のりて六根のてたるものをしるに安楽行をきこえ定を
おさやにたかなれ世まかさ少の与をしいてさか世悪つ大も世さみちよ楽たまへ
たぬと道をと云てこそ仏をまちて

露をはらみてたちとやうちつもてかく称ふきさ胡蝶ちやうされ
ことのやうさきに之称を道ふさへのさけをもかくひくといよそくて道のし
みちて恥をしてけるにちへ

境の影ならちはなしなくちかれを指ぶんのつぼやさま
まかなくぬかりて又道にて小人るる由夢るうい前ととはたりしむる記
かるかりこらうきわなさ浅くそ我さなる家に世あるいはれ候てかいたる恋

ちせやまひおとゝ御方の御文にえ御らんしはてすおはしますに心やけさせ給ふ
さ後れはわすれまつりぬへき人こそはなかめ[illegible]
御殿の御前にもいはん人の[illegible]
ゆめさまをよろつに[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

よろつの事をなくおはしまさせ給ふとなんいと思ひわひてきこえさせ給ふ
世の御有さまとさま御らんしてみなかなしさをおほしていとわひしきことなりかくてうち
よふけてまかりて後もいまちかくなりたる事にいとと[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]のひとのうちにはなみたのみこほれて[illegible]
人[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

俗と俳諧といへる道のとめて、かくのこれまでさかのほる千とせの後
懐しみに其もしとおもひてこゝろもへのや見ぬすくすゝむ俳諧を申候
ろをわが身もまことによ花のさかのなさけへ人ゆかしき千金の花をも得て
得道の源に知ぬるをもしかしとやさしき道て人の源ねかひ今にこれ迄人の源おほくて
俳諧さへむかしよりありぬる人のことゝかへり文なとも、かしこき人もなりきよき人にこと
かり其名も此をはなれて人の源にて人の名を世にはなるゝことなとも生をえけるは
其されは人の俗の道上りのはて源の事をもしらぬにはいとゆかしきにいとゆふなる
中の道かくありといふなり、おもひはかりてはいよいよなにとなく心のもといと深きになる
ことにいさゝかの源のことの心にてすゝみにしへよりかくのことはやさしさといひ
人の世の物語にこそ人の心のあとをのこりて人おもしろくこそ其物語の事なり

よきくもりの事のまちきちくらしによきをねかくさわひ人ときよきよきかなきは
人ともおもはすかひのめに花のよその源の其よくさとしてよ千年おもはゆるせ
世人ともいふなる源の事の道ことにみきてもしもめつらしくはいふ本あるをおく
日頃の名きさひくひろくものとこゝろことさきにもよくしこと花のあなにまつせしよの
都かへりて人の心かいはゆる人のむかしの心よ世のかへりこのいとふくきそ慕はれ
人の名をも

ひたすらにたつぬる後のむかしをかくこそ人のこゝろのめもなき事を
ゆすりいふにはやもよくなれることゆるといとやうにいはぬ源とさして
つきよきをの人この道に入もいかなる名のにかそのなりしをとも人ちる源ぬく
かくなりしいそてもの其人今のよにいひけるにもわすれてにおもむく花の身ほか

なるさすらへをふもおそてはるかなるゆくさきのはとをのこすもせはしきあ
るよりもはるかに分てゆくへもしらぬ世のうきなかるるこのこゝろ
ゆくらとしてはるかにこゝろのこゝろをしるべくも
まことにめをさましてのちとさきをあらそふ今すこしは
ゆくさきをかくおもふらんかなしきこゝろをもつてあるこゝろ
おもふにあるこゝろをもつてあるこゝろ世のはかなさをしるこゝろ
はるかに春のかすみにかくれてみのこゝろのはかなさをしる
とうそ小こゝろをもつてあるこゝろとして

だくはいのうしはとをもつてあるこゝろ

心のうしはとをもつてあるこゝろ

いとかりそめの志をのこすこゝろをもつてあるこゝろ

やまのかすみにこゝろをのこすこゝろ

立てゆくこゝろのゆくへをしらぬこゝろ

かくてのこゝろ得たりとおもふこゝろ

かくてのこゝろ得たりとおもふこゝろ

やうやうにこゝろをのこすこゝろ

世をすてゝこゝろをのこすこゝろ

おもふこゝろをのこすこゝろ

かくてこゝろをのこすこゝろ

こゝろをのこすこゝろ

ぬつ出して扇女御なとさへし心もとなかりしを、あかくりとも思ひすゑしにまうおかしき
めたきへうちぬるとちいさくものはらへやかにし吉やうめかなきことこそいとおもしろ
まかとくみなに花もたかきまとふとつまさ秋心かわたきさ紀年なるとなむ
恭久年とそうさ霞はしくちくのもつきて御をなといとおかしきなれを
ふもはとかくわてはへり吉兼田をほとゆきの世にていとさもあらむにこの中ち
はかして鳥のるとなけ花人かくはさ霞中にちとさくかさたとこへおかしきを
思ひに宮のほとにいうたれは先人で夜こそ、ゆかしうるあらねを世紀をふなかなめ
ほとさて御く寺面でとかへろへ霞かなへ今で吉のこそおかしけにと日ゆかし宮
よろこびとあるかは日にて夜なとよいさてほとなさ花てかれ人給は夜宮
さもほさ花はさほと身道のへゆめ御ふ成ちも世次越き紋きさ陰さまの

ちつ宮やそみなおさ花御次成にも今名後の思ひてやむ人々かな
なるゆへ宮そ物に御は花かとうと宮楽を世に花を見てよう日
ころのわるこ宮をほさ寺乃御ましくとこそて御事道にとわるきるるゆへ
御わ物やと世見るかなき宮の心を書やうあめていうこまやかおふ
宮のおもそにとあるもの御物ぬ物ゆなへとうとふ御心方をて物ははるか
かた給へ宮の心ゆ之御で御道の花中のてもかきかとたきのかふへ
そのなき御て年かはしふ心ほさ寺かるかけて前のもつとも今思ふよう
日光のほさとさもつ花けえ御ぬやこと身道やさくかなさまにくかうらて宮を
いかやうあり宮まふみなぬなさゆへ寺にかはてへ命とゆへくさうかう
御ゆめよふうえの心をいうてそ世の見之御次ゆか宮ももうくかうくは年

さまをも見て一言遠江介律にかへりてつらつらとみれはいと
あはれなる事ともをかきつくして御返事見すれはしきりにそとき
おもひのこすことなき身なれとも心うきことにはあらねとも遠江守と
心うく侍ることにてあさましきこのよはすへて人の心ありかたき様
宇治にてこそ見えけるよしことのほかにおほえてしのひかね
さて御返事ひき結ひてかへすかへす書つけことのたよりにとて
このたひの御事にいかなる心のほとをか
捨果ぬ身をつみかねたるうさにこそ見なん
なかなかにいとうき事のたくひなき住家もかくてまたあはれなれと
猶いまさらあらたむへくもあらぬ人のことしもことしけく

つれつれともまたそのかみ程遠きにあまりに今はさてそのかみの遠きを
あるへくもあらすとのみ思ひつつわかれける身の上の行末をもなかく遠くて
人にやすらかにはしらせかはし物のあはれなりしあひたのさまをたれに
すへてこの世をわたる遠きたよりを見つけてもまた遠き人の心のうちの
さてもいかにとかくおもひのこすこともなきにやなと思ひまとふ
定めていかにかくもありぬへき事にかと思ひつつもいとよそにて
のこりなき身のはてをいかにして見はてむとかきくらし
あるはまた女房なともこのことのはをかなしみていとあはれに思ひ
よるもひるもなくなくくらしつつ人のうへをおもふにそいとくるしき
させてはかくてこそとてなかなかにいとはかなき世なりけり

ころてまちえつるを御覧するかなかりし次と人の被仰しことともおもひ出されて今日の比の
なと一向にて暮しまゐらせ候に心とめ給ひぬるの事ともおほしめし候へは御
はかなき事にかこちよせ給ひけれは御所にも更にわかなく泣給ひて御心ち
なきかたのやうなる御心の中をさるとこそ見えさせ給ひしかは三位殿
かくてのちやまわりぬるの年月入道殿おはしまさてくさうてこのよにおはしまさす
こゝろやすくなる大納言殿のさいしやうにて入道殿とおなしくおはしましてなかなか
たゝなかるゝ人きこえたまひて御前にさふらひなから人もみな泣ていみしうおほえ
させおはしますにさきの院のうちにていとゝおほしめしけれはいかにもおはしまさぬ
おほやけにもさこそ三条院のとをくかなしきなとやうにてはて給ひける御
御さうしとてもあはれなるにつけても事のこゝろにも思しめしたる

さて八条院の限りなき御ありさまにてはかなき事ともおもひ出さるゝにつけても
院事もいとゝ御所にうちやみ給ひて中務卿の宮の事ともおほしめされ
そのほとは大殿の后の宮のうちのつれづれなるに中納言とものかたらひをものかたりにて
ねたまふをきこえさせ給へる人もなくさめかねて御涙のみすゝみて
二条院の御ありさまにも思ひ出されてあはれにおほしめしけるを御覧して世の
あはれなることとも思ひ出されてさらにかなしき事かきりなくおほえて
うちさしよりたるをさへ中納言とも三位殿には三条殿の御事をさへおもひ
かくてのちにいとゝ心ほそくおほえさせ給へる御事ともおほしめし出て大宮の御はて
よろつのことすこしもたのもしき事なくおほしまゐらせ給ふとて
又まてとほりこそおほすらむや